

## 令和元年度（平成31年度）地域連携センター事業報告書

### 1. 教員事業

#### [1] 地域連携センター事業

- |   |      |
|---|------|
| (1) 松橋崇史准教授（商学部）  | 1 頁  |
| ■事業テーマ<br>「山梨県：山中湖村自転車 <sup>1</sup> の聖地連携プロジェクト<br>～学生が協力出来る方法を検討・調査」 |      |
| (2) 阿部眞理教授（工学部）、白石照美教授（工学部）   | 3 頁  |
| ■事業テーマ<br>「岐阜県：第26回美濃和紙あかりアート展」への出席                                   |      |
| [2] 内閣府地方創生推進室事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」                                    |      |
| (1) 徳永達己教授（国際学部）  | 3 頁  |
| (2) デイビット・ブルーカ准教授（商学部）  |      |
| ■事業テーマ<br>「山梨県：まちづくり合同ゼミ“新しい地方創生のかたちづくりプロジェクト”」                       |      |
| (3) 竹下正哲教授（国際学部）  | 6 頁  |
| ■事業テーマ<br>「山梨県：最先端の農業技術導入に向けた農家連携プロジェクト」                              |      |
| (4) 工藤芳彰准教授（工学部）  | 8 頁  |
| ■事業テーマ<br>「山梨県：笛吹市芦川町をフィールドとしたソーシャルデザインの提案」                           |      |
| (5) 永見 豊准教授（工学部）  | 10 頁 |
| (6) 森岡大輔助教（工学部）   |      |
| ■事業テーマ<br>「山梨県：Lab Prismaプロジェクト 峡南自動車教習所 PR プロモーション」                  |      |

### 2. 社会連携・地域貢献

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| (1) 高尾登山電鉄株式会社            | 13 頁 |
| 「社員英会話スクールのサポート」          |      |
| (2) 八王子市立第一中学校            | 13 頁 |
| 「生徒による上級学校訪問」             |      |
| (3) 八王子実践高等学校との教育交流に関する会議 | 13 頁 |
| 「高大連携講座」の開講               |      |
| (4) 岩手県盛岡市関係者と同市の事業に関する会議 | 14 頁 |
| 「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」    |      |

### 3. 協定

- |                                    |      |
|------------------------------------|------|
| (1) 「拓殖大学と八王子実践高等学校との教育交流に関する協定書」  | 14 頁 |
| (2) 「長野県上田市鹿教湯温泉地域の活性化包括連携に関する協定書」 | 15 頁 |

### 4. 出版物

- |                      |      |
|----------------------|------|
| (1) 「拓殖大学百科（外国語学部編）」 | 15 頁 |
| (2) 「拓殖大学百科（国際学部編）」  | 15 頁 |
| (3) 「拓殖大学百科（工学部編Ⅱ）」  | 15 頁 |

### 5. センター会議

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| (1) 「地域連携センター会議」（第1回） | 15 頁 |
| (2) 「地域連携センター会議」（第2回） | 16 頁 |

### ● 「拓殖大学地域連携センター」（Regional Liaison Center）について

## 1. 教員事業

### [1] 地域連携センター事業

#### (1) 松橋崇史准教授（商学部）

「山梨県：山中湖村自転車の聖地連携プロジェクト」

令和元年7月12日（金）～13日（土）：参加学生5名

-----

#### ●（1）松橋崇史准教授事業報告

##### ■事業テーマ

「山梨県：山中湖村自転車の聖地連携プロジェクト」

##### ■事業概要

山梨県山中湖村は、フランス自転車チームの事前キャンプ地としてフランスのホストタウンであり、競技会場でもある。自転車競技のロードレースは武蔵野の森公園をスタートして西に向かい、山中湖の周回道路を2度走って、ゴールとなる富士スピードウェイに向かう。フランス自転車チームの事前キャンプ誘致を実現する過程で、「自転車の聖地」を創ろうという動きが生まれていく。2019年2月には、一般社団法人山中湖村サイクリングチームを創設。法人の中に、プロサイクリングチームを目指す「山中湖シクリムフォーメーション」と誰でも参加可能な「山中湖サイクリングクラブ」を立ち上げる。拠点施設を稼働させるなどして、2019年11月にはロードレース大会として山中湖サイクリングクラシックを開催することになった。東京オリンピック・パラリンピックの開催にあたってはレガシーの形成が求められているが、山中湖村の取り組みは、その最前線に位置するものであり、大学教育の教材としても優れたものであると考えた。そこで、こうした活動に学生が関わり、支援する方法を検討して、その中で様々な学びができるような状況を作ろうと考えた。

##### ■事業目的

こうした山中湖村の自転車のプロジェクトは多くの活動を展開している一方で、多くの活動が緒についたばかりで、人的リソースが慢性的に不足し、ノウハウも不足している状況である。スポーツまちづくりに関心のある学生にとって山中湖村の取り組みは、教材として優れているだけでなく、実際に関わって支援することもでき、その中でさらに深い学びを行うことが可能となる。山中湖村側からも学生の関与を期待されていたこともあり、実際の関わり方について検討し、実際に関与することを目的とした。

##### ■事業内容

検討の結果、2019年11月に開催される山中湖サイクリングクラシックの運営を支援することになった。山中湖サイクリングクラシックは、アマチュア選手に交じってプロ選手も多く参加し、将来的には全国的にもランクの高い大会に成長させることを目指してスタートを切った。大会運営ボランティアとして参加した学生は、受付サポート、レースサポートに分かれて大会を支援した。レースサポートでは、周回ごとのタイム制限内に走れなかったレーサーにレース終了を促しコース外に誘導する係や周回情報をレーサーに伝える係などを担い重要なポジションを任せられ、学生も緊張した面持ちで大会ボランティアに臨んだ。なお、モデルとなったのは宇都宮市で開催されるジャパンカップ（日本最高峰の自転車大会）である。ジャパンカップは1990年の世界選手権自転車競技大会のメモリアルレースとして1992年に創設され、歴史を刻んできた。サイクリングクラシックの閉会式では、選手からマネジメントスタッフに転身したばかりで大会GMを務めたトム氏が大

会を発展させ、2020年のレガシーにし、「自転車の聖地」として村を盛り上げていくことを宣言した。

#### ■事業成果

山中湖村サイクリングクラシックは成功裏に終了し、初回大会で一定の成功を収めたことによって、次回大会のさらなる飛躍を期待させた。参加した学生の多くにとって（自転車競技を専門とする学生が1名在籍している）自転車レースは始めて観るものでそのスピード感に感動を覚え、そうした大会を支えられたことに高い充実感を覚えた学生が多くいた。また、参加学生にとってスポーツイベントの運営に携わること、さらに言えば、そのスポーツイベントが地域活性化を寄与したものであったことなどを意識して携わることが初めての経験であった。大会開催に向けた誰が企画を行い、誰が運営を主導したのか。行政はどのように関わり、補助金はどの程度支出されたのか。コース作成にあたり地元警察とどのような調整を行ったのか。そして、村民はこの大会に関心を示したのか、参加者が宿泊などの形で山中湖村においてどの程度の消費を行ったのかなどを考える良い機会となった。小さなイベントであったからこそ、学生が上記項目を把握するには適しており、良い学びの機会となった。なお、その後、4名の学生が追加で山中湖村での調査を行い、期末レポートで取り組みをまとめた。

#### ■今後の課題

2020年のオリンピックコースになることを経て、サイクリングクラシックがより大きな大会になっていくことが想定される。ゼミの活動として継続的に支援をしていきたいと考えているが、ボランティア側の専門性を問われることになるだろう。2019年大会に関わった学生の経験を後輩に託し、さらに後輩たちが研鑽することで、大会発展に貢献できるようにすることが今後の課題となる。

#### ■事業風景



(2) 阿部眞理教授（工学部）、白石照美教授（工学部）

「岐阜県：第26回美濃和紙あかりアート展」への出展

令和元年10月12日（土）、13日（日）※台風19号の為、中止。

尚、本学学生のアート展出展予定であった作品が、(株)フィットハウスの要請で同社名古屋千種店で11月22日（金）から展示され好評を得る。

※(株)フィットハウス：コナカグループの郊外型総合ファッション店舗を展開する企業。全国30店舗。

[2]内閣府地方創生推進室事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」

(1) 徳永辰己教授（国際学部）

①「山梨県：信玄公祭りみみ地域ブランドプロジェクト」

平成31年4月6日（土）～7日（日）：参加学生3名

②「山梨県：新しい地方創生のカタチづくりプロジェクト増穂登り窯仮想体験」

平成31年4月30日（火）～令和元年5月2日（木）：参加学生3名

③「山梨県：空き家につながる住まいプロジェクト笛吹市」

令和元年5月25日（土）～26日（日）：参加学生38名

④「山梨県：グリーンビジネス研修（田植え）」

令和元年6月1日（土）：参加学生38名

⑤「山梨県：まちづくり合同ゼミ富士川現地調査」

令和元年6月20日（木）：参加学生2名

⑥「山梨県：特別講座実践のまちづくりフィールドワーク笛吹市ひねみ地区」

令和元年7月21日（土）：参加学生38名

⑦「山梨県：富士川夏まつり」

令和元年7月27日（土）～28日（日）：参加学生7名

⑧「山梨県：まちづくり合同ゼミ富士川現地調査」

令和元年8月7日（水）：参加学生4名

⑨「山梨県：グリーンビジネス研修2（稲刈り）」

令和元年9月28日（土）：参加学生34名

⑩「山梨県：山梨県立大学との打合せ」

令和元年10月24日（木）～25日（金）

⑪「山梨県：富士川夏まつり出店」

令和元年11月9日（土）～10日（日）：参加学生18名、他1名

⑫「山梨県：まちづくりフィールドワーク」

令和元年11月30日（土）：参加学生31名

◎⑬「山梨県：トークイベント（中間報告）」

令和2年1月11日（土）～12日（日）

☆⑭「やまなし Mirai プロジェクト+2019最終報告会」

令和2年2月2日（日） 於）八王子国際キャンパス「恩賜記念館」

本学：学生32名、教職員12名 山梨県立大学：学生19名、教職員9名

⑮「山梨県：まちづくり合同ゼミ「新しい地方創生のカタチづくりプロジェクト」

令和2年2月3日（月）：参加学生15名

(2) デイビッド・ブルーカ准教授（商学部）

①「山梨県：グリーンビジネス研修（田植え）」

令和元年5月31日（金）～6月1日（土）：参加学生25名

②「山梨県：グリーンビジネス研修2（稲刈り）」

令和元年9月28日（土）：参加学生23名

●（1）徳永達己教授事業報告

（2）デイビッド・ブルーカ准教授事業報告書

■事業テーマ

「山梨県：まちづくり合同ゼミ“新しい地方創生のカタチつくりプロジェクト”」

■事業概要

徳永ゼミナールは、様々なまちづくりの活動を通じて、インフラ開発や地方創生の方法について学んでいる。

活動にあたっては、学生と地域住民との交流を通じて、地域の特徴を活かしたブランド化戦略の確立方策について検証を行う。

地方創生に関しては、これまで空き家を利用した山梨県南巨摩郡富士川町への地方活性化に向けて様々な調査の研究・発表を行ってきた。本プロジェクトは、2017年度の本学「学生チャレンジ企画」に採択されたものであり、本年度も継続して活動を行い、富士川町の魅力を発信する手段の一つとして郷土料理”みみ”の普及、商品開発化を進めるものである。

また、山梨県富士川町で毎年開催されている「甲州富士川まつり」に出店しており、本年は山梨県立大学国際政策学部杉山歩ゼミナールを協働して出店することも事業活動の一つとする。これらの活動を通じて、富士川町全体の活性化へとつなげる。

■事業目的

本プロジェクトは、日本が抱える深刻な問題の一つである、人口減少地域における地方創生に向けた貢献策の一つとして、地域の魅力を活かしたブランド化のあり方について検証することをゼミ活動の事業目的とする。

普段、対象地である富士川町に住んでいる方々にとって、当たり前には食べられている”みみ”を、町外へ発信することは、富士川町をはじめ拓殖大学のPRにも大きく繋がる事が期待される。

さらに、将来的には富士川町の道の駅「ふじかわ」首都圏の主要駅での物産展にて販売することも長期的な目標として設定し、活動を実施している。今年度は、拓殖大学の学食販売をはじめ、「自然薯とそばのお店・高尾の桜」にて「福みみと自然薯のとろろ膳」として期間限定（2019年12月末～2020年1月）で販売した。

なお、本プロジェクトは、2017年度より協働して活動に取り組んでいる永見豊准教授、および工藤芳彰准教授が指導している工学部デザイン学科の学生とも協力して実施する。

■事業内容

本プロジェクトは、2017年度の「学生チャレンジ企画」に採択された内容のものであり、本年度も継続して活動を行い、富士川町の魅力を発信する手段の一つとして郷土料理”みみ”の普及、商品開発化を進めていくものである。

また、ゼミでは12月28日～29日にかけて、「ダイヤモンド富士を見る人々へ、郷土料理”みみ”を振る舞いたい！」と題する活動を行った。同活動は、山梨県立大学と協力し、ダイヤモンド富士にて郷土料理”みみ”の試食会を開催したものである。

当日は、冬至の山梨県高下（たかおり）地区で見られるダイヤモンド富士（富士山の山頂から日が昇り、ダイヤモンドのような輝きを放つ様）を見に来る人々約100名に対して、“みみ”を配り、地域の方々や現地の訪問者より好評を得た。

さらに、来年度（2020年度）からゼミで活動する現1年生にも、本プロジェクトの理解を深め、まちづくり活動の具体的な構想発案を容易にするため、実際に富士川町を訪問する機会を設けた。

1月は、富士川町の郷土料理である“みみ”を使った町づくり活動を行っていることから、まずはつくたべかんとを訪問し、1年生を対象に、“みみ”づくりの指導を行った。

さらに、富士川町出身である山梨県立大学の教授の杉山先生にも富士川町の訪問に同行してもらい、地域住民との意見交換も行った。これにより、山梨県立大との連携を進めるとともに、富士川町の魅力についても説明を受けた。来年度ゼミに配属予定の1年生はこれにより本活動の内容について理解を深め、現地の人との関係も繋ぐことが可能となり、今後の活動にも資する機会となった。

## ■事業成果

### 1. 本活動により期待される成果

#### ●富士川町のメリット

- ①町外ではみみに対する知名度は低いですが、認知度が広がる。
- ②食文化の継承
- ③町を知ることによりほかの特産品の知名度も向上する。
- ④新たな名産品が生まれる。
- ⑤経済効果により発展に活かすことができる

以上の効果から富士川町の特徴を活かした地域ブランドの確立を図る。

#### ●学生のメリット

- ①拓殖大学の学生と富士川町民同士で交流を通して地方の現状を学ぶ。
- ②伝統料理を知ることで自分たちの地域の伝統料理に対しても関心が高まる。
- ③町民や行政を含めた企画の設計・運営という経験ができる。

#### ●大学側のメリット

- ①富士川町に大学を知ってもらうことで、地域との新たなネットワークができる。
- ②学生が主体となってプロジェクトを成功させることができれば、拓殖大学の知名度が上がる。
- ③大学が掲げる「教育ルネサンスのグランドデザイン」が達成される。

### 2. 活動により達成された成果

本活動は、上述した成果に対して一定の貢献を果たしたと考える。加えて、次のような成果を達成した。

- ①富士川町、拓殖大学、そして山梨県立大学の3者の協働作業を実施することにより、産学連携の取り組み方策について検討する契機となった。
- ②参加した関係者間ネットワークの強化が図られた。
- ③下述のまちづくりの課題が明らかになり今後取り組むべき活動方策が明確になった。

## ■今後の課題

### ①活動拠点の機能整備

活動の効果の実施を支援するため、2019年4月より、富士川町役場は、学生の活動拠

点として南別館庁舎の部屋を貸与してくれることになった。広さは35m<sup>2</sup>であり、今後は活動の計画策定や地域住民との打ち合わせスペースとして有効活用していきたい。このため、室内の清掃・片付けを行い、必要な備品を備えるなど、スペースの有効活用に努めていきたい。将来的には同施設を使って、定期的な活動報告会を開催するなどの利用について検討する必要がある。

### ②活動の広報活動の充実

SNS、成果報告書などを活用し、様々な媒体を通じて、本活動の情報を学内外にさらに発信していきたい。

### ③参加者と後継者の育成

学内および地域の参加者を増やしていきたい。特に学生は、1年毎に入れ替わることから、後継者の確保が重要になる。本活動の趣意を十分に理解した優秀な学生の確保と育成に努める必要がある。

## ■事業風景



「甲府市で行われた信玄公祭りに参加」 「ダイヤモンド富士に集まった地域住民に“みみ”を振る舞う学生」

### (3) 竹下正哲教授（国際学部）

#### ①「山梨県：最先端の農業技術導入に向けた農家連携プロジェクト」

令和元年5月18日（土）：参加学生31名

#### ②「山梨県：農業連携プロジェクト第2回実地調査」

令和元年6月29日（土）：参加学生11名

#### ③「山梨県：農業連携プロジェクト（農業イベントプレゼン打合せ）」

令和元年8月3日（土）：参加学生10名

#### ④「山梨県：ブドウ・モモの栽培で必須 枝の剪定」

令和元年12月14日（土）：参加学生16名、他1名

#### ⑤「埼玉県：最先端の農業技術導入に向けた農家連携プロジェクト」

令和2年1月23日（木）：参加学生35名、他1名

## ●（3）竹下正哲教授事業報告

### ■事業テーマ

「最先端の農業技術導入に向けた農家連携プロジェクト」

### ■事業概要

「日本農業を変えていこう。今変わらねば、滅びる」という呼びかけとともに、2019

年1月から始まったプロジェクト。

最初はチームもなく、ただ目指すべき理念と、学生たちのやる気だけがあった。最初に動いてくれたのは、元NHK ロンドン支局長の兼清先生（山梨県立大学）、そしてNHK エグゼクティブ・ディレクターの片岡氏だった。彼らの協力のもと、理念に賛同してくれる企業やプロ農家を探し、チームができあがっていった。

学生たちの若い力が潤滑油となってくれた。途中から学生独自の「ハタチの畑プロジェクト」が立ち上がり、求心力が生まれていった。開始から1年、学生たちは実際に耕作放棄を開墾するまでになり、その背景では、100億円規模の農業プロジェクトが立ち上がり、日本農業に改革をもたらそうとしている。

#### ■事業目的

2つの目的があった。1つは、日本全体の農業を変えていく、というもの。日本農業は1970年代から栽培技術の進화가止まっている。一方海外の農業は、ここ数十年で急速に進歩した。いよいよ2019年から日本農業は開国させられた。このままでは日本農業は滅びる危機にあるので、山梨と東京から改革を起こしていこう、というのが、大きな目的。

もう1つの目的は、学生プロジェクトの目的であり、山梨には耕作放棄地がたくさんあり、問題となっている。その解決のために、東京からの学生が定期的に通い、シャインマスカットを栽培していく。ただ栽培するだけでなく、販売して、利益を上げ、それにより持続的に活動を続けていく。地方創生を目指すとともに、世界最先端農法をここから発信していく（ハタチの畑プロジェクトと学生たちが命名）。

#### ■事業内容

学生プロジェクトとしては、まず2019年から山梨の果樹園に定期的に通い、プロ農家（ショートレッグスさん）から桃とブドウの栽培技術を学んだ。あわせて、大学内にも果樹園を作っていただけることになり、その整備を進めた。果樹園は2020年4月頃に完成予定で、そこで学生たちが栽培法を学ぶとともに、世界最先端の栽培法を実験していく。

2020年2月には、山梨の耕作放棄地と契約を取り交わし、実際に学生たちの手によって開墾した。桃の古木を抜き、整地するという大作業であった。これからシャインマスカットを定植し、学生たちが栽培をしていく。

「日本農業を変えていく」という大きな目的については、まずは組織作りから始めることとなった。まずコアメンバーとして、拓殖大学、山梨県立大学に加えて、山梨のプロ農家チーム（ショートレッグス）、八王子のプロ農家（中西ファーム）、イスラエル農業と強いパイプを持つ（株）サンホープというチームができあがった。イスラエル式の最先端農業を導入し、そのデモンストレーションをしていくことで、日本農業を変えていくという方向性が定まった。

#### ■事業成果

学生プロジェクトとしては、実際に耕作放棄地でブドウを栽培していくチームと現場ができあがった。2週間に1度しか学生が通えないという中で、新しい栽培法の確立にほぼ成功し（日本初となる省力化栽培）、作物の売り先も確保できた。これから、学生自身がシャインマスカットを栽培し、販売し、利益を上げ、それにより事業を永続的に回していくことになるが、うまく回り出せば、おそらく日本で初めての事例となるだろう。

「日本農業を変えていく」という目的については、竹下の本が2019年に出版されたこともあり、それに共鳴した大企業の社長さんたちが、続々と声をかけてきてくれた。現在のところ、NHK、青木フルーツホールディングス、日建リース、スーパーベルク、カメイ商事、ヒューマンホールディングス（ヒューマンアカデミー）、ゼンショーホールディン



グス（すき家、ココスなど）、マイナビ、ベンファーム、JAXA、世界市場、イスラエル企業 SupPlant などと連携をして、100 億円規模のプロジェクトを進めている。全員の問題意識は共通しており、「日本農業を変えていかないといけない」という危機感の中にある。

#### ■今後の課題

学生プロジェクトについては、今後内閣府からの支援がなくなるのにもない、学生たちの交通費が出せなくなるのが、一番の課題。スポンサー探しを続けてきたので、いくつかの企業は「お金を出したい」と名乗り出てきている。が、正式に契約を交わすためには、いくつもの課題があり、すぐの実現は難しい。

また参加学生のほとんどが農業コース生のため、3年次になると、全員北海道に行ってしまう。後輩への引き継ぎ、および彼らが帰ってきた後の復帰が、今後の大きな課題。

大きなプロジェクトについては、日本農業を改革するために、日本に欠けている技術を調査、導入する必要がある、そのための費用が一番の問題。たとえば収穫後の作物を長期保存させるポストハーベスト技術（薬は使わない）や最先端 AI を使った栽培法など。

#### ■事業風景



#### (4) 工藤芳彰准教授（工学部）

- ①「山梨県：笛吹市芦川地区でデザインプロジェクト」  
令和元年5月25日（土）～26日（日）参加学生14名
- ②「山梨県：第2回笛吹市芦川地区フィールドサーベイ」  
令和元年7月13日（土）～14日（日）：参加学生5名
- ◎③「山梨県：トークイベント（中間報告）」  
令和2年1月11日（土）
- ☆④「やまなし Mirai プロジェクト+2019最終報告会」  
令和2年2月2日（日） 於）八王子国際キャンパス「恩賜記念館」

●（４）工藤芳彰准教授事業報告

■事業テーマ

「山梨県：笛吹市芦川町をフィールドとしたソーシャルデザインの提案」

■事業概要

3 年次科目「デザインプロジェクト・演習」の課題として、課題「山梨県笛吹市芦川町をフィールドとしたソーシャルデザインの提案」を設定し、2 回の現地フィールドサーベイ（5 月末と 7 月中旬、上芦川地区と中芦川地区、鶯宿地区を対象）およびデザイン提案（8 件）、報告書（印刷体）作成に取り組んだ。

■事業目的

目的は主として 2 つある。1 つはデザイン教育で、もう 1 つは得られたアイデアを視覚化し、今後のコミュニティデザインの参考とするため、地域へ提供することである。前者については、学生に少子高齢・人口減少時代における地域の現状を体験させ、課題解決のためのデザイン思考をとおして、各自のオリジナルのデザイン提案に取り組みさせる。後者については、報告書（印刷体）を作成し、関係者へ配布する。

■事業内容

3 年次科目「デザインプロジェクト・演習」は、集中講義型の演習で、各コース・教員が設定する課題について、学生が選択的に取り組むものである。事業責任者である工藤の課題は、昨年度に比べ、対象地域を芦川町に絞った「山梨県笛吹市芦川町をフィールドとしたソーシャルデザインの提案」である。本事業は、その基本的資料の収集およびデザイン対象の選定、発想源を獲得するため、2 回の現地フィールドサーベイを実施した。フィールドサーベイの概要は次のとおりである。第 1 回は 5 月 25・26 日の 1 泊 2 日で、特別参加の 4 年生を含む学生 16 名が参加し、チャーターバスで芦川町の上芦川地区と中芦川地区、鶯宿地区を巡った。第 2 回は 7 月 13・14 日の同じく 1 泊 2 日で、学生 5 名が参加し、レンタカーで鶯宿地区を巡り、山梨県立大学・安藤ゼミが主催する地域イベント「芦川えんさ祭り」に参加、住民の方々に当地の歴史や生活についてインタビュー調査に取り組んだ。

■事業成果

デザイン教育の面では、期待どおりの知見を得て、8 件のデザイン提案に結実した。それらのタイトルは以下のとおりである。1) 地元食材を利用したオリジナルジュース「芦ジュシー」、2) オリジナルキャラのぬいぐるみを連れて地域を巡る「ぬい撮りで芦川を楽しもう！ すずらんの妖精 あしらん」、3) クイズを楽しみながら芦川巡り「？（ナゾ）解き散歩」、4) ライダーを芦川へ集める「バイクに乗って芦川へ！ KABUTO Seeing」、5) 大ゲヤキをモチーフにしたシールを集めるまち歩きイベント「かみあしがわ探検隊」、6) ハンターと協働する狩猟&ジビエ体験「芦川イノシシ狩り」、7) 芦川をフィールドに水鉄砲で戦う「あしがわみずでっぼうがっせん」、8) 兎造りの民家をモチーフにしたスタンプラリー「芦川の魅力に触れよ Ashi Peta」である。これらの成果は、印刷体の報告書にまとめられ、芦川町の関係者を含むコミュニティデザインの当事者へ配布された。

■今後の課題

芦川町はもとより、同様の課題に取り組む地域において、上記 8 件のデザイン提案を利活用していくことが今後の課題である。

■事業風景



「フィールドサーベイの様子」



「山梨県立大学・安藤先生によるレクチャー」



「地域イベント・芦川えんさ祭り参加」

(5) 永見 豊准教授 (工学部)

- ①「山梨県：峡南自動車教習所（富士川町）PR プロモーション」  
令和元年7月31日（水）～8月1日（木）：参加学生7名
- ◇②「山梨県：Lab Prismaプロジェクト（峡南自動車教習所のPR プロモーション）」  
令和元年11月23日（土）～25日（月）：参加学生7名
- ◎③「山梨県：トークイベント（中間報告）」  
令和2年1月11日（土）～12日（日）
- ☆④「やまなし Mirai プロジェクト+2019最終報告会」  
令和2年2月2日（日） 於）八王子国際キャンパス「恩賜記念館」  
本学：学生32名、教職員12名 山梨県立大学：学生19名、教職員9名

(6) 森岡大輔助教 (工学部)

- ①「山梨県：峡南自動車教習所（富士川町）PR プロモーション」  
令和元年7月31日（水）～8月1日（木）：参加学生7名
  - ◇②「山梨県：Lab Prismaプロジェクト（峡南自動車教習所のPR プロモーション）」  
令和元年11月23日（土）～25日（月）：参加学生7名
  - ☆④「やまなし Mirai プロジェクト+2019最終報告会」  
令和2年2月2日（日） 於）八王子国際キャンパス「恩賜記念館」  
本学：学生32名、教職員12名 山梨県立大学：学生19名、教職員9名
-

● (5) 永見 豊准教授事業報告

(6) 森岡大輔助教事業報告

■事業テーマ

「Lab Prisma プロジェクト 峡南自動車教習所 PR プロモーション」

■事業概要

本事業は、2018年度 第1回内閣府地方創生支援事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択された教育連携プロジェクト（事業名「Mirai プロジェクト+」）を中心としたやまなしキャリアデザインの推進）により実施したものです。東京圏の大学の学生に地方の魅力を確認してもらうとともに、地方圏の大学でも東京圏で学ぶ機会を作ることで地方圏の大学の魅力を高め、地方への新しい人の流れを生み出すことを目的としています。事業期間は4年間（補助期間2年）であり、本報告は2年目に実施したものです。

■事業目的

Lab Prisma プロジェクトとは、地元企業や地域の魅力を発見し、それらを写真、映像、グラフィック制作によって可視化して様々なメディアで発信するためにブランディングや各種イベントのプロデュースを行うプロジェクトです。

「峡南自動車教習所 PR プロモーション」の課題は、山梨県富士川町にある峡南自動車教習所のCMを制作することです。峡南自動車教習所は、人口減少や若者の車離れなどに伴い、利用者の減少傾向に苦しんでいます。そこで、この課題の解決の一助となるべく、大学生の獲得を目指したCMを制作することになりました。拓殖大学は、東京圏の学生向けのCMを制作しました。山梨県立大学は、県内の大学生向けのCMを制作しました。CMの制作にあたって、学生には、「価格以外の新しい視点を見つけること」、「コンセプトと構成を説明すること」などの課題が与えられました。

■事業内容

□ 2019年7月31日、8月1日 両校 峡南自動車教習所を訪問

山梨県立大学と拓殖大学の学生が合流しお互いの自己紹介、峡南自動車教習所を訪問して、合宿免許の寮や食堂、隣接するゴルフ場などの案内を受けました。二日目は合宿免許に来ている学生にインタビューすることができ、充実した調査を実施することができました。

□ 2019年11月23日 拓殖大学 峡南自動車教習所にて撮影

初日には峡南自動車教習所の方々に向けて、CMのシナリオを共有するための発表会をおこない、制作予定作品の講評をいただきました。また合宿免許の体験価値の理解を深めるため合宿寮に宿泊し、翌日にはPRに必要な情報収集をおこないました。現地撮影では教習所でのインタビュー調査およびその周辺の撮影、またドローンを利用した空撮を実施することで普段と異なる視点から教習所とその所在地である富士川町の魅力発見に努めるなど充実した調査を実施することができました。

□ 2020年1月13日 拓殖大学 峡南自動車教習所にて成果発表

教習所の方々に制作したCMを披露し、その内容の講評や今後の制作についてのアドバイスを頂きました。CMは大変好評で、シリーズ化を検討するなど新たな方向性を得る重要な機会とすることができました。

□ 2020年2月2日 拓殖大学にて合同発表・意見交換会

両校の合同発表と意見交換会を八王子国際キャンパスにて開催しました。両校各チームが制作したCM6本を披露し、そのコンセプトや構成、教習所からのコメントを紹介しました。動画の表現方法は両校の専門分野の特徴が表れており、多くの気づきがありました。

## ■事業成果

本学の学生には「新しい価値を見出す」「自分のこととして考える」を念頭において作品を制作するようアドバイスしました。学生は山梨県富士川町を訪れ、教習生や教官に話を聞き、朝から夕方まで現地を見て回ることによって、多くの気づきや共感を得られたようです。新しい価値として「身近な自然」「教官のキャラクター」を見出し、視聴者が共感できるように大学生を主役としたり、教官をアメリカン・コミックス風に紹介したりするなど、新規性や創造性の高い作品となりました。

山梨県立大学の作品では、大学一室での学生同士のやり取りをする表現の他、YouTubeでの配信を意識したプレゼン形式の新しいCM構成でした。ターゲット層の行動を分析し、視聴者が動画を一時停止できる特徴を活かした新しいCMのカタチとすることで、沢山の情報を盛り込んだ内容でした。

両大学の作品は、表現方法は異なるものの、学生同士の会話で進行して教官や食事に着目している点は、同じ発想であり、これらが教習所の魅力となっていることが再認識できました。

本事業の成果は「2019 成果報告書 峡南自動車教習所 PR プロモーション」(A4 横、40 ページ)の印刷冊子として発行しました。

## ■今後の課題

### (1) 現地調査の交通費

現地調査では、当事者に話を聞き現地を見て回ることによって地域の課題が実感でき、さらに、長時間チームで行動することでチームの協働意識が高まるなど、まちづくり活動には必須となる調査です。今回の現地までの交通費は、大学生対流促進事業の予算によるものでした。今後は本事業の予算が無い場合、現地調査交通費の学生負担軽減が課題となります。

### (2) 県立大学との日程調整

両校の学生の履修状況に空きが少ないため、合同での現地調査日程は、土日や授業の無い休假期間に限られました。他大学合同でのプロジェクトは日程調整が課題となります。

## ■事業風景



「教習所の案内」



「教習所での記念撮影」



「成果発表会」

## 2. 社会連携・地域貢献

### (1) 高尾登山電鉄株式会社「社員英会話スクールのサポート」

派遣講師：小島和枝政経学部非常勤講師

派遣期間：平成31年4月23日～令和元年7月23日

※尚、当初予定されていた9月からの社員英会話スクールは、高尾山観光客増に伴う同社の繁忙状況から休止となった。

※平成30年度からの継続事業である。(2年目)

### (2) 八王子市立第一中学校

「生徒による上級学校訪問」

令和元年10月29日(火) 13:30～15:00

生徒6名 ※参加生徒からは好評であった。

目的：進路選択に必要な知識や理解を深めるとともに礼儀やマナーを学び実践する。(第一中学校依頼書より)

内容：①大学現況の紹介

②工学部授業見学「「造形計画・演習」：岡崎章教授、工藤芳彰准教授、森岡大輔助教担当科目

③図書館見学等

### (3) 八王子実践高等学校との教育交流に関する会議

所在地：〒193-0931 八王子市台町1-6-15 ☎(042) 622-0654

会議等：①令和元年10月25日(金) 10:00～11:00 於) 本学

②令和元年11月13日(水) 14:20～15:30 於) 高校

③令和元年11月28日(木) 18:00～21:00 於) 外部施設

④令和元年12月18日(水) 13:00～13:35 於) 本学

⑤令和2年1月17日(金) 10:30～11:00 於) 本学

⑥令和2年3月6日(金) 11:30～13:00 於) 高校 ※締結式

内容：教育交流の具体的内容について

①「協定書」について

②「高大連携講座」の開講について

<2年生対象講座(案)>

「楽しく学んで Improve Your English Skills！」

予定講師：小島和枝政経学部講師

「楽しい学ぶ口頭表現にお技法」

予定講師：小田貴子商学部講師

< 3年生対象講座（案） >

「文理融合で学ぶグローバル社会」（高校側へは未提示）

③ 「高大連携講座」（2年生対象）シラバスについて

④ 「高大連携講座」（3年生対象）講座案について

(4) 岩手県盛岡市関係者と同市の事業に関する会議

令和2年1月22日（水） 於）八王子国際キャンパス

来校者：熊谷俊彦氏（市政策統括特別参与）

工藤 貢氏（市玉山総合事務所・産業振興課課長）

勝又洗樹氏（市玉山総合事務所・産業振興課主査）

大 学：前山利幸教授（工学部・産学連携研究センター長）

鶴木則夫部長（八王子事務部・地域連携センター）

荒川正彦審議役（八王子総務課・地域連携センター）

内容：盛岡市が文京区がとし連携を結んでいる（「文京区・盛岡市友好都市提携」：平成31年2月20日締結）関係から、「盛岡市玉山地区の農業発展」を目指して盛岡市が“文京区学生（複数大学総勢20名予定）と創るアグリイノベーション事業”を展開したいとしての事前PRに来校したものである。具体的には、学生目線でフィールドワーク等を行い農業振興・地域発展への提言に結びつけるのが目的である。

尚、事業期間は令和2年4月～令和5年3月の3年間を予定している。

3. 協定

(1) 「拓殖大学と八王子実践高等学校との教育交流に関する協定書」

★締結先：八王子実践高等学校

★締結日：令和2年（2020年）3月6日（金）

○目 的：グローバル人材の育成・強化を念頭に、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めると共に、本学と八王子実践高等学校の教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上に資すること。  
尚、「高大連携講座」を八王子国際キャンパスで2年生対象講座（2科目）が令和3年4月、3年生対象講座（1科目）は令和4年4月から開講予定である。

○関係教員：河田昌一郎常務理事 川名明夫学長 山田政通副学長  
鶴木則夫八王子事務部長 荒川正彦審議役



(2) 「長野県上田市鹿教湯温泉地域の活性化包括連携に関する協定書」

★締結先：鹿教湯温泉100年ブランド創造プロジェクト

★締結日：令和2年（2020年）3月13日（金）

○目的：鹿教湯温泉地域の課題解決及び地域の活性化並びに大学の教育・研究の充実を図り地域社会の発展に寄与すること。

◎予定されていた締結式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から締結先からの提案で締結式を実施せず、郵送での協定書交換に変更となる。

#### 4. 出版物

(1) 「拓殖大学百科（外国語学部編）」（令和元年5月31日発行）

(2) 「拓殖大学百科（国際学部編）」（令和元年5月31日発行）

(3) 「拓殖大学百科（工学部編Ⅱ）」（令和元年9月30日発行）

※ホームページ「地域連携センター」へ追記

※各編を八王子市・教育委員会・学園都市センター・商工会議所、企業、市内高校・中学校へ送付。（118部：1団体に複数部配付の場合有り）



「外国語学部編」



「国際学部編」



「工学部編Ⅱ」

#### 5. センター会議

(1) 「拓殖大学地域連携センター会議」（第1回）開催

開催：令和元年6月14日（金）13:00～14:10

主な議題：①「拓殖大学社会連携・社会貢献の方針」について

②平成30年度教員事業報告について

③令和元年度事業について

④事業経費支出基準について

⑤事業申請書及び報告書について

<参考>

「拓殖大学社会連携・社会貢献の方針」

拓殖大学は、大学は公共的役割を担う存在であるとの重要性を認識し、積極的に大学情報を国内外に発信すると同時に大学が有する教育・研究の成果、各種施設、ネットワーク等の知的・物的資源の社会への還元を進めていく。

拓殖大学は、これまでも社会の要請に応えるべく、社会連携・社会貢献や国際社会への協力・貢献にも目を向け、種々の施策を進めてきた。



具体的には、大学間及び高大連携、自治体との共催や連携の講座開設、区民や市民大学への講座科目の提供、本学の特色を生かした海外派遣・公開講座・資格取得講座の開設、また、地域社会との連携を目指しての地域行政機関への協力、企業との連携、地域の各種イベントやスポーツ大会を通じた本学学生・留学生と地域住民との交流、教育施設や運動施設の開放などである。

さらに、学生の海外地域活性化プロジェクト参加やボランティア活動参加が、将来の社会の担い手となる学生の国際性や公共へ寄与する意識の醸成に有意義であることから、引き続き推進していく。

また、社会連携・社会貢献を含め教育・研究の展開には、その裏付けとなる財政基盤の確立・充実は不可欠であり、拓殖大学の自主的財源の確保の観点から、その経済的支援の拡大にも努めていく。

拓殖大学の目指す方向は、グローバル化が進展する社会において、国際的視野で地域社会の課題解決にも貢献できる「社会に開かれた国際大学」であり、地域社会と共生し、地域社会から信頼される存在となることである。

※平成 30 年度「自己点検・評価委員会（第 2 回）」承認

(2)「拓殖大学地域連携センター会議」（第 2 回）開催

開催：令和 2 年 3 月 4 日（水）13:00～14:30

主な議題：①令和元年度事業報告について

（ア）地域連携センター事業

（イ）内閣府支援事業

②令和 2 年度事業計画について

以上

# 繋

## ●「拓殖大学地域連携センター」(Regional Liaison Center) について

本学の教育・研究成果の知を基盤として国内外の地域社会との交流及び活性化に貢献すること、また、学外諸機関とも連携して学生の実践的学修に資することを目的として、平成30年4月1日に八王子国際キャンパスに設置致しました。

尚、同センターの主な事業は、下記の通りです。

1. 地域社会及び学外諸機関との連携・交流・協働に係る活動の推進に関する事項
2. 地域社会及び学外諸機関との連携に係る協定作業に関する事項
3. 地域社会の課題等についての調査・研究に関する事項
4. センターの情報発信に関する事項
5. その他センターの目的を達成するために有益な事項

<令和元年度委員>

担当理事：河田昌一郎常務理事

委員：川名 明夫地域連携センター長（学長）  
山田 政通地域連携副センター長（副学長）  
佐原 隆幸地域連携副センター長（国際学部）  
松橋 崇史委員（商学部）  
山本 尚史委員（政経学部）  
関口 美幸委員（外国語学部）  
藤本 淳史委員（外国語学部）  
工藤 芳彰委員（工学部）  
永見 豊委員（工学部）  
竹下 正哲委員（国際学部）  
徳永 達己委員（国際学部）  
鶴木 則夫委員（八王子事務部長）  
上條 聡視委員（八王子事務部次長兼八王子総務課長）  
加藤 秀紀委員（八王子学務課長）  
橋本 知子委員（八王子学生支援室長）  
佐伯 孝夫委員（八王子国際課長）  
荒川 正彦委員（八王子総務課）